

環境学習コーディネート実施概要（Web 掲載）

依頼№	4	事例№	3	依頼者	大府市市民協働部環境課	実施場所	大府市吉田公民館
実施対象	幼児～6年生とその保護者（子ども10名、大人6名）（合計16名）						
実施日時	令和5年9月16日（土） 9時45分～11時30分						
テーマ	地球温暖化について親子で楽しみながら学ぶ						

●依頼内容

地球温暖化について、クイズや神経衰弱などの市民参加型のゲームを交えながら親子で楽しく学べる講座の講師を紹介してほしい。

●講師：村瀬政彦 氏（愛知県地球温暖化防止活動推進員、あいち eco ティーチャー）

村瀬政彦氏は、ごみ・資源循環・3R、エネルギー問題などを専門とされ、愛知県地球温暖化防止活動推進員であるとともに、「あいち地球温暖化対策人材登録・紹介ネット（温暖化まなびネット）」、「あいち eco ティーチャー」にも登録されている。

●授業の内容

講義	みんなでチャレンジ！ストップ！おんだんか	自己紹介の後、講師から、桜の開花時期が早くなったり、紅葉の時期がクリスマス頃になったりするなど、気温の高い時期が長くなっていることについて話があった。また、2050年を想定した未来の天気予報のビデオ「2050年の天気予報」（2014年NHK制作）を上映し、予測よりも速いスピードで温暖化が進んでいることが示された。講義の中で、2050年の東京の夏の気温を考えたり、家の中の様子を描いたイラストを見て、エネルギーの無駄を参加者と探すクイズ等を行ったりした。実験では、CO ₂ が水（海）に溶けることを確認したり、使用する豆電球の数が増えるとより多くの力（エネルギー）が必要であることを手回し発電機を用いて学んだりした。	45分
休憩			10分
工作	カード型顕微鏡を作ろう	350年ほど前に発明されたレーウエンフック顕微鏡の仕組みを学んだ後、スチレンボードとガラス玉を使って、それと同じ仕組みのカード型顕微鏡を作成した。作成後、公民館の周囲にある植物の葉っぱを取ってきて、葉の裏にある気孔を作成した顕微鏡で観察したり、講師が持参した、塩や胡椒、シナモンの粒、髪の毛などを使ってプレパラートを作り、顕微鏡と重ねて光にかざして観察したりした。	50分

●授業の様子

授業は、幼児～小学6年生までの子ども10名とその保護者が参加した。講義は、写真やイラストが多用されたパワーポイントを使い、クイズや実験を交えながら進められ、子どもたちは講師の問いかけに元気に答えていた。手回し発電機で豆電球を点灯させる実験では、4つの豆電球を3分間点灯させ続けるため参加者同士協力しながら一生懸命に発電機を回し、電球の数が増えるとより大きな力が必要になることを実感していた。工作の時間では、スチレンボードに爪楊枝で穴を開けて小さなガラス玉を埋め込んだり、葉っぱにボンドを垂らして乾かした後、気孔をセロハンテープに写し取ったりしたが、細かい作業は小さな子どもにはやや難しく、保護者も協力して作業を進めていた。ガラス玉の形によって、気孔や塩の粒を上手く観察できない参加者もいたが、子どもたちはいろいろな種類のプレパラートを作って楽しそうに顕微鏡をのぞいていた。

地球温暖化と省エネについて学んだ。



カード型顕微鏡を作って、葉っぱの気孔等を観察した。

